

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立長南中学校

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成29年4月18日(火)

3. 調査の対象

中学校第3学年、全生徒

実施生徒数(80人)

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び数学。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容(A問題)と、それらを活用する力などに関する内容(B問題)とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査(以下「生徒アンケート調査」という。)を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の生徒が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査(以下「学校アンケート調査」という。)を実施する。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(国語)

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・本年度は、例年に比べ全国平均との差が縮まっている。

平均正答率(本校 73/泉佐野市 75/大阪府 75/全国 77.4)

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国に比べやや低くなっている。

平均正答率(本校 63/泉佐野市 67/大阪府 69/全国 72.2)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞く能力】 ○相手に分かりやすいように語句を選択して話すことに課題がある 7ー 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す (59.5/72.9) 【読む能力】 ○文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つことに課題がある 4ー 文章について説明したものとして適切なものを選択する (43.0/54.0) ○文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くすることに課題がある 8ー 二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する (60.8/72.3)	【言語についての知識・理解・技能】 ○文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある 9-2 漢字を書く(雨で運動会がエンキになる。)(48.1/62.3) ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある 9三ウ 適切な敬語を選択する。(先生もこの書店をよくご利用になるのですね)(75.9/85.7) ○古典には様々な種類の作品があることを知ること課題がある 9七2 「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す。(あやう)(65.8/77.2)

国語 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【読む能力】 ○登場人物の言動の意味を捉え、内容を理解することに課題がある 1ー 本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する (68.4/84.1) 【国語への意欲・関心・態度】【話す・聞く能力】【書く能力】【言語についての知識・理解・技能】 ○表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことに課題がある 1三 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く (24.1/41.4)	【書く能力】 ○集めた材料を整理して文章を構成することに課題がある 3ー 下書きについての説明として適切なものを選択する (59.5/75.3) 【国語への関心・意欲・態度】【書く能力】 ○必要な情報を集めるための見通しをもつことに課題がある 3三 アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえたと考えた理由を書く (55.4/68.8)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと感じますか。	68.8	62.5	◇	6.3
国語の勉強は好きですか。	57.6	60.5		2.9
国語の勉強は大切だと感じますか。	91.3	88.8		2.5
国語の授業の内容はよく分かりますか。	78.8	74.9		3.9
読書は好きですか。	52.6	69.9	○	17.3
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	81.3	83.3		2.0
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	47.5	62.7	○	15.2
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	35.0	55.6	○	20.6
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。	52.5	65.9	○	13.4
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。	92.6	95.9		3.3

○「国語の授業はよく分かる」は全国平均を上回っていて、本校生徒の学力実態に合った授業が一定できていると考える。

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」は全国平均を大きく下回っている。それは国語B問題の「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」、「集めた材料を整理して文章を構成する」、「必要な情報を集めるための見通しをもつ」を出題の趣旨とした設問正答率の低さにも通じる。授業では型を用いて発表をする、根拠を明らかにして自分の考えを書くことなどにとりくんでいるが、子どもたちの実感とは結びついていない。さらに、意識的に活用できていないのが現状である。

○国語A問題、書写の設問は2問とも全国平均を大きく上回っており、2年生後半に集中的に学習した効果が表れたと考える。また、漢字も「覚悟」の読みで100%になるなどいくつかの問題で全国平均を上回っており、毎時間続けてきた漢字の小テストの成果だと考える。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(数学)

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況と比べて、中間層は比較的上回っているが、下位層に偏っていることがみられる。
平均正答率(本校 53/泉佐野市 61/大阪府 64/全国 64.6)

「B区分問題」

- ・平均正答数の全国的な分布状況と比べて、A区分問題と同様に下位層への偏りがみられる。
平均正答率(本校 36/泉佐野市 43/大阪府 46/全国 48.1)

2. 学力状況調査より(本校正答率/全国正答率)

数学A	特徴がみられた設問
【数学的な技能】 ○数量の関係を文字式で表すことができる。 2(1) 5mの重さがagの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す。(38.0/56.3) ○整式の加法と減法の計算ができる 2(3) $(2x+5y)-(6x-3y)$を計算する(67.1/78.5) ○等式を目的に応じて変形することができる 2(4) 等式 $x+4y=1$ をyについて解く(44.3/56.1) ○簡単な一元一次方程式を解くことができる 3(1) 一元一次方程式 $4x=7x+15$ を解く(62.0/82.7) ○具体的な場面で、一元一次方程式をつくること ができる 3(2) 数量の関係を一元一次方程式で表す(19.0/52.8) ○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる 3(4) 連立二元一次方程式を解く(43.0/62.2) ○扇形の弧の長さを求めることができる 4(3) 半径が5cm, 中心角が120°の扇形の弧の長さを求める(20.3/30.7) ○命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる 8 事柄「$\angle ABD=\angle CBD$, $\angle ADB=\angle CDB$ならば、$AB=CB$である。」の仮定をすべて書く(51.9/74.3) ○与えられた比例の式について、xの値に対応するyの値を求めることができる 10(1) 比例 $y=4x$ について、xの値が3のときのyの値を求める(70.9/84.6)	○与えられた比例のグラフから、xとyの関係を $y=ax$ の式で表すことができる 10(2) 比例のグラフから式を求める(36.7/57.1) ○一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、xとyの関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる 11(2) 一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる(58.2/75.9) ○具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる 12 線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ(53.2/67.6) ○与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる 14(2) 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める(25.3/45.5) ○簡単な場合について、確率を求めることができる 15(2) 赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める(60.8/78.3) 【数量や図形などについての知識・理解】 ○角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している 4(1) 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ(49.4/67.4) ○空間における直線と平面の平行について理解している 5(1) 直方体において、与えられた辺に平行な面を書く(57.0/67.0)

数学A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数量や図形などについての知識・理解】 ○円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している 5(2) 1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ (79.7/90.1) ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している 7(1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く (57.0/78.6) ○与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している 10(3) 反比例の表から比例定数を求める (21.5/34.4)	○与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している 11(2) 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ (43.0/56.0) ○二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している 13 二元一次方程式が表すグラフを選ぶ (51.9/63.0)

数学B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【数学的な見方や考え方】 ○事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる 1(1) 隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ (51.9/67.5) ○与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる 1(3) 与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ (38.0/52.8) ○与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる 2(2) 六角形を n 個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローを n を用いた式で表す (20.3/44.1) ○筋道を立てて考え、証明することができる 4(1) 2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する (27.8/44.1) ○証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる 4(3) 点Dと点Eを $BD=CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、$\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ (34.2/44.5)	○与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる 5(2) 全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ (36.7/50.3) ○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる 5(3) 「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する (3.8/17.6) 【数学的な技能】 ○数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる 3(3) 与えられた式から、a の変域に対応する b の変域を求める (26.6/43.2) ○付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる 4(2) $\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、$\angle BEA$ の大きさを求める (41.8/60.0)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の授業は好きですか	50.0	55.4		5.4
数学の授業は大切だと思いますか	81.3	81.1		0.2
数学の授業の内容はよく分かりますか	73.8	69.4		4.4
数学ができるようになりたいと思いますか	90.0	91.2		1.2
数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	70.1	73.5		3.4
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	36.3	45.3	○	9.0
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	60.1	72.4	○	12.3
数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	55.0	71.2	○	16.2
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	60.1	72.1	○	12.0
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	81.3	81.3		0
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	88.8	93.3		4.5

○「数学の授業の内容はよく分かりますか」や「数学の授業は大切だと思いますか」は全国平均を上回っていることから、数学に対する意欲的な姿勢が見られる。

○数学の授業で学習したことを、さまざまな問題に利用したり、日常生活に対して役立てる応用力が全国平均を下回っている。

○A区分問題、B区分問題ともに共通して、「関数」や「図形」に関する問題に対して誤答率、無回答率が全国平均を上回っている。授業においても、この分野には苦手意識をもつ生徒が多い傾向にある。特に説明、証明などの記述問題になると、無回答率が約半数の数値になっており、考える力や表現する力に大きな課題が見られる。

平成29年度全国学力・学習状況調査の分析(生徒質問紙より)

質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1, 2を肯定的評価, 3, 4は否定的評価としてそれぞれ同じ傾向と捉え、本校の子どもたちの意識調査を行った。(例えば, 1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない)

また, それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し, それらを全国と比較した。下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で, 特徴的な項目を列挙した。さらに, 下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問 内容 種類	本校の状況	本校<本校回答率/全国回答率>
【家庭生活の様子】	・「朝食を毎日食べていますか」は昨年度は全国平均をわずかに上回っていたが, 今年度は全国平均を13.1%下回っている。 ・「自分には, よいところがあると思いますか」は全国平均を19.4%下回っている。 ・「放課後に何をして過ごすことが多いですか」は「学校の部活動に参加している」が全国平均より少なく, 「習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている」が7.4%高く「家でテレビやビデオ・DVDを見たり, ゲームをしたり, インターネットをしたりしている」が13.7%高い。また, 「家族と過ごしている」「友達と過ごしている」と答えた子どもも全国平均を大きく上回っている。 ・「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」で「4時間以上」が全国平均より13.0%高い。また, 「30分より少ない」は7.5%低く, 使用時間が全国平均より長い傾向にある。また, 「携帯電話やスマートフォンを持っていない」のは3.8%であり, 全国平均の16.1%と比較しても携帯の所持率が高い。 ・「携帯電話やスマートフォンの使い方について, 家の人と約束したことを守っていますか」は全国平均を8.2%上回っており, 全国平均よりも家の人との約束を守り携帯電話等を使用している傾向がある。	○朝食を毎日食べていますか <u><80.1/93.2></u> ○自分には, よいところがあると思いますか <u><51.3/70.7></u> ○毎日, 同じくらいの時刻に寝ていますか <u><67.6/75.6></u> ○携帯電話やスマートフォンの使い方について, 家の人と約束したことを守っていますか <u><58.8/50.6></u>
【家庭学習の様子】	・「家で, 学校の宿題をしていますか」「家で, 学校の授業の復習をしています」は, とともに昨年度に続き全国平均を大きく下回っている。 ・「学校の授業時間以外に, 普段, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか」で「3時間以上」が全国平均より8.7%上回っている。しかし, 「全くしない」も全国平均より5.1%上回っており, 昨年度と同様に家庭学習習慣の定着は二極化している傾向がある。しかし, 「全くしない」割合は昨年より5.4%改善されている。 ・「家で, 自分で計画を立てて勉強をしていますか」は全国平均を7.7%下回っている。	○家で, 学校の宿題をしていますか <u><61.3/89.5></u> ○家で, 学校の授業の予習をしていますか <u><16.3/31.7></u>

【学校生活の様子】	・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」は全国平均を4.6%上回っている。 ・しかし、「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」は全国平均を大きく下回っており、課題がある。 ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」は全国平均を4.6%上回っている。 ・「学校で、好きな授業がありますか」は大阪府平均との比較では1.6%下回っているが、全国平均とは7.9%の差があり、より一層の授業改善のための工夫が求められる。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」に「当てはまる」と答えた子どもが全国平均をわずかに上回っており、大阪府の平均との比較でみると3.0%上回っている。 ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」は全国平均を3.3%上回っており、今までとりくんできた多文化共生の学習やブレンディオ中学校との交流が成果として表れていると考えられる。	○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか $\lt 55.1/50.5 \gt$ ○授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか $\lt 51.3/70.9 \gt$ ○1, 2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか $\lt 90.1/87.8 \gt$ ○1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか $\lt 77.5/66.1 \gt$ ○1, 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか $\lt 73.8/53.7 \gt$
------------------	--	--

本 校 の と り く み

◎これまでのとりくみ

○基礎学力の定着に向けて、習熟度別分割授業や補充的な学習を行っています。

今年は英語と数学で少人数分割授業を行っています。分割では習熟度別でクラスを分けており、自分の進度に合わせて学習にとりくむことができます。また、各学年で長期休業中に補充授業を行っており、前向きに学習にとりくむ姿が見られます。1年生で週1回火曜日に行っている放課後学習は「きっと もっと ちからがつくよ」の頭文字をとって、今年度「きもち勉強タイム」と名付けられました。基礎学力の定着と全職員が1年生とのつながりをつくることを目的に、全教職員で行っているとりくみです。他にもテスト前に教科担当に質問を聞きに行ける質問日や、各学年で放課後学習会なども実施しています。

- ・ 数学・英語での習熟度別指導や学級を2分割しての少人数指導の実施
- ・ 1年生への数学・英語の週1回の7時間目授業(きもち勉強タイム)の実施
- ・ 放課後の補充学習会の実施
- ・ 長期休業中の補充学習会の実施
- ・ 定期テスト前の放課後を利用した教科別質問日の実施

これらの補充的な学習の機会の他に、全学年子どもの実態に応じた手づくりの教材で朝の学習と毎日の宿題を行い、基礎学力の定着と家庭学習習慣の確立をめざしています。

○支援教育の視点を活かしたユニバーサルな授業をめざしています。

- ・ 蛍光チョークによる授業の目標の明示
- ・ 「授業のふりかえり」を実施
- ・ 本時の流れを黒板に明示
- ・ 視覚支援を取り入れた「目で見てわかる」授業
- ・ 黒板周りに掲示物を貼らない等、集中しやすい環境のための教室整備

すべての子どもたちが授業にとりくみやすくなるための手立てとして、これらを学校全体で確認し、全クラスでとりくんでいます。

○授業改革のための教職員研修を行っています。

- ・ すべての学年で研究授業を行い、授業改善に努めています。

全職員で1つの学年を見る形で研究授業を行っています。今年度は「子どもをひきつける授業づくり」「主体的・協働的に学ぶ授業の仕掛け」をテーマに行っており、研究授業の中で多くの目で子どもの実態を見るとともに授業の有効なしかけについて研究討議を行い、教職員で共通理解をもつようにしています。また、今年度は大阪教育大学の土田光子先生に助言者として来てもらっています。

- ・ こ小中合同研を通じた校種間の連携・交流・授業規律の統一

長南校区では、はるかこども園・長南小学校・長南中学校で合同研修を年2回行っています。研修で異校種の職員が交流することで、子どもたちの15年間の育ちを見すえて各学校園で大事にするポイントを確認しています。今年度の第2回合同研のテーマは「15年間を見すえた こ小中の“接続”～子どもの姿で語り合いましょう～」でした。活発な意見交流と討論が行われ、長南校区でめざす子ども像についての認識が深まりました。

- ・ 目標に準拠した評価を通した授業改革

各教科で各学期ごとに評価計画を作成した上で計画的に授業を行っています。子どもにとっても授業内で評価基準を明確化することによって授業にとりくむ意欲に影響する姿が見られます。目標に準拠した評価を通して授業改革を行うことを意識しながらとりくんでいます。

○班活動を集団づくりの中心に据えています。

本校は、集団づくりの中心として班活動に重点を置いています。班活動を充実させることで、子どもた

ちのコミュニケーション力の向上や、ものごとにより自主的にとりくむ力の向上をめざしています。集会のある日以外、毎日行っている朝の学習は班単位で行っており、わからないところを子どもたちどうしで教えあう姿が見られます。また、授業でも班活動を取り入れており、子どもどうしの交流や言語活動の充実のための機会をつくっています。その他授業展開に応じて、ペア学習、学習班での活動などをとり入れ、充実した授業ができるよう努めています。

○授業規律の確立のため、生徒指導委員会と連携をとっています。

- ・全教職員での授業開始 3 分前入室指導

授業開始 3 分前に全職員で入室指導を行っています。授業のスタートがスムーズに行えるように全教職員で協力しています。

- ・授業開始 1 分前のメロディチャイム

授業開始 1 分前にメロディチャイムが流れています。音楽(校歌)が聞こえると授業の準備を急ぐ子どもたちの姿も見られ、学年によってはキャンペーンとからめてチャイムで授業スタートにとりくんでいる学年もあります。

- ・全校の「月間目標」の設定

具体的な「月間目標」を設定し、全クラスに掲示しています。「校歌着席でレッツスタディ」「授業に前向き！よい姿勢で学習しよう！（グーピタピン）」など、具体的な言葉で子どもが意識しやすい目標を生徒指導委員会で話し合っています。生徒指導委員会には学力向上担当も入り相談をしています。

○家庭学習の充実に努めています。

- ・「家庭学習の手引き」の配布

教科ごとの学習方法や家庭学習のしかたについての情報提供のため、全家庭に「家庭学習の手引き」を年度当初に配布しています。家庭学習の手引きは基本的に 4 月の家庭訪問時に各家庭に届けられ、家庭学習についての理解を深めてもらい、家庭と学校とが協力して子どもの学力向上をすすめられるようにしています。

- ・毎日の宿題

家庭学習習慣の定着のため、どの学年でも宿題を出しています。宿題は班長や集配係が集め提出し、担任がチェックして返すなど各学年で行っています。

◎これからのとりくみ

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○基礎学力の定着に向けて、習熟度別分割授業や補充的な学習を行っています。○支援教育の視点を活かしたユニバーサルな授業をめざしています。○授業改革のための教職員研修を行っています。○班活動を集団づくりの中心に据えています。○授業規律の確立のため、生徒指導委員会と連携をとっています。○家庭学習の充実に努めます。 |
|---|

以上の長南中学校が今までとりくんできた学力向上のとりくみを継続し、一層推進していきます。

○その他、これから工夫改善しながらとりくんでいくこと

- ・毎日の宿題、朝の学習、放課後学習の継続
- ・支援教育の視点を活かした授業づくりの推進
- ・授業における言語活動の充実
- ・指導と評価の一体化をめざした授業づくりの充実
- ・学習規律の再点検
- ・教職員研修の充実(自主研修の工夫)
- ・地域との交流の充実

・他校種との連携の充実(特に高等学校との連携・追指導の充実)

○基礎学力の充実のために反復教材の工夫と家庭学習への活用をすすめます。

○子どもの学力実態に即し、すべての子どもにわかりやすい授業を実現するため、支援教育の観点を活かした授業づくりと、習熟度別少人数指導の工夫と充実を図ります。

○全ての教科で、子どもたちの考える力・判断する力・表現する力をはぐくむことをめざした言語活動の充実をより一層すすめます。

○目標に準拠した評価をさらに充実させるため、授業と評価の一体化を図り、授業改善に努めます。

○支援教育委員会と連携し、個々の子どもの学習状況や課題を把握し、個別支援や通級指導教室の活用などきめ細かいとりくみをすすめます。

○家庭学習の充実を図るため、「家庭学習の手引き」の配布を継続するとともに、「家庭学習の手引き」の内容の充実を図ります。

○大人の協力で子どもたちを見守りサポートするために、家庭・学校・地域の連携を一層すすめます。